

ちょっと深掘り!②

船絵馬に注目!



19

採集地:青森県佐井
寸法(mm):縦216×横290×厚さ8

船絵馬とは?

船絵馬とは、馬ではなく船が描かれた絵馬のことです。船主や船頭などが航海安全を祈願して、あるいは無事に航海を終えたことに感謝をして、自身の所有する船が描かれた船絵馬を寺社に奉納していました。

船絵馬は江戸時代初めの寛永年間(1624~1644)からみられるようになり、特に幕末~明治時代にかけて盛んに製作されました。北海道から東北、北陸にかけての日本海側沿岸地域に多く残っている一方で、太平洋側にはあまり残っていません。これには船絵馬に描かれることが多い北前船が西廻り航路に利用されていたことが影響していると考えられます。

描かれているのはどんな船?

本資料に描かれている船は弁才船^{べんざいせん}という種類で、船絵馬においてよくみられる船です。弁才船は大きく反った船首と船尾、垣立形式構造^{かきたつけいしきこうぞう}が特徴的です。帆で進む力が強く、少ない乗員で多くの荷物を積めるため、西廻り航路で広く利用されていました。

また、中央に大きく見える帆にはなにも描かれていませんが、下の資料の黒い線のように、船絵馬の帆にはさまざまな模様が描かれていることが多いです。この模様は帆印^{ほじるし}といい、陸の上から航海をしている船を判別する目印の役割を果たしていました。

こわれた部分から紙を発見!



20

採集地:青森県佐井
寸法(mm):縦222×横285
×厚さ5

普通の絵馬とはちがった作り方!?

絵馬は木の板に馬の絵を描いて作られる…なんて思っていないですか? 実はすべてがそうではないのです。船絵馬をよーく見てみると…なんと板に直接絵が描かれているのではなく、板の上に船の絵が貼られています!

当館所蔵の船絵馬は、板に直接絵を描くのではなく、版画刷りした船の絵を板に貼り付けて製作されます。この船の絵は、絵馬専門の絵師が描いていたとされ、写実性が高く、船の構造や乗組員の数、帆印、帆の反数など船ごとの特色が鮮明に描かれます。

本資料は、木の板に船の絵を釘のようなもので打ち付け、その上から梓木を貼り付けています。